

# 人の定点

柴田 渥さん

## 3 回目

—以前伺った時から、何か変化などはありましたでしょうか？

柴田：9月1日の岩手県総合防災訓練があつて、松原町内会自主防災会の役目とすれば、地域の避難場所に避難するという事だったのね。その計画の文章が送られてきた時は、例えば今までの避難訓練は、どっかに行つて、避難時の練習をすつとか、炊き出しをすつとかつていうそういうもののお手伝いとか参加とかあつたんだけど、今回はなかつたので、少しはホツとしながら、でも松原で残つてお家つていうのは限られてるわけだから、果たしてどのぐらいの人がここ（松原公園）に集まってくれるのかなあつていう事。

一応、自主防災会とすれば、全戸配布でお知らせをしました。これには町内会費払つてるとか払つてないとか関係なく、松原町に住んでいる、アパートに入っている人たちも含めて全部の人達にお知らせをしたわけです。回覧じゃなく一件ずつね。

当日になつて、その結果63名の方がここに避難しました。第1に、松原神社も避難場所なのね、ここは。そして、松原公園と2ヵ所あるんだけど、主に松原公園の方に58名。あとの5名は松原神社の境内の入口の方、高齢者が多いので、とても階段登つて境内の方まで行けないので、鳥居の所でストップして待機をしていたという。時間はわずか30分だけの待機だったんですけど、ちょうど暑い日でね、朝から。とても高齢者が多いのでね、コミュニティーを開放してここで待機をしてもらいました。椅子を出してね。

公園とコミュニティーが両隣なのでね。それも可能だったわけで。市の方からは2名の担当の方に来ていただきまして、まずまず良かったなあという風に考えておりました。

本当は全然津波で家がみんな持つていかれて残つてお家が少ないわけだから、「残つてお家があるから避難訓練はいいや」つて来ないのかなあと思つてたけど、避難場所より上の方たちも参加してくれまして、すごくホツとしました。つていうのは、津波の避難訓練だったんだけど、ここ（松原）は土砂災害という大きな課題もしよつてるのね。だから、この沢の人達とか上の人達にとっては他人事ではないし、津波だけではないので、危機意識みたいなのが皆さんあるんだなあと思つて。本当に嬉しかったし、自主防災会として今後も頑張つと希望を持ちましたね。

あとは9月10日には、1ヶ月お休みした松原会をやりまして。8月はお盆で松原会は開けませんでしたが。10日の日は例によつて松原会を開いて、約20名の方に集まっていたいて。

いつもは市の方とか、いろんな人たちの講話を聴いたりなんですけど、今回は誰もそういう方たちがなくて、自分たちだけでね。それこそわきあいあいとおしゃべりをしたりして、ひと時を過ぎたわけですけど、やっぱりお盆が間に入ったから、2か月ぶりぐらいなのね、いつも来ている人にとっては。

二か月ぶりなので皆さん「来たかったよ」なんて言つてたので、嬉しかったなあと思つます。やっぱりこういうのは、皆さん口揃えてね、復興の計画とか、復興の様々な取り組みが遅いので、すごく不安になつていろいろこれから先どういふ風に考えたらいいかつて、本当の気持ちの奥の部分さらけ出して、例えばこういう席でお茶飲みながら皆で「いつまでこうなんだろうね？」とか「うちの場合はさ」とか気兼ねなく、皆で語り合えるのが、ずっと長い間松原で暮らしていた人たち同士なので、そこら辺はいいのかなあつて思

って。たまにチャカチャカと来てはさ、「そしてどうしたの？」とかって割り込んだりして話をしたりなんかして。ひと時和やかに過ごしてすごく嬉しかったです。

こっちもね、何人かの方たちにはいつもお手伝いをしてもらって、食事の支度をするんだけど、毎回ね、ただここに来て、ただ食べていくのではなくて、皆さんお手伝いもしてくれるのね。運んだり、それこそお皿とってって言えばお皿をね。で、洗ったり拭いたりちゃんと皆さんお手伝いしてくれるから実にね、大したにぎやかなのね（笑）。

今まではお客さんでね、何回かはそうだったんだけど、「ここに来てただご飯を頂いて申し訳ない」って言って帰ることもあったけど今はね、自分達も参加して楽しくやってるっていう。自分たちの会にね、だんだんできてきたなっていう風に変化してきたような感じがしてましたけどね。

松原会というのはみなさんにとっては心のよりどころにもなってるし、迎える側の私たちにも楽しみだし、少しでも皆の気持ちを酌んであげることができているんだなっていう実感をね、できるひと時だなどと思っております。

いつも来て来ない人がいたりなんかすると「あら、あの人どうしたの？」って心配したりするのが、そこがいいのかなという風にも思いますね。

それから15日は、松原町内会の中で、お年寄りの方（75歳以上の方）を対象に、敬老の日の記念ということでお菓子を毎年プレゼントしてるんです。ご夫婦で75歳以上の方もいるので。世帯的にもね。中身は別として、「あれ、こんなのか」と思う人もいるかもしれないけど。ささやかなものだけど、町内会ではプレゼントをしてあげてます。これには、町内会は班体制で動いてますから、班長さんたちに協力をしてもらって高齢者の方たちのお家に届けてもらったりしてね。

そういう作業がここで行われて、皆さん滞りなく…って言っても、悲しいかな、人数少なくなっているんで、3丁目はまるっきり亡くなったのでね。1丁目2丁目も少なくなってるので、あっという間に終わってしまったんだけど、こういう事は続けていきたいなと思っております。ここに残った人だけではなくて、仮設にいる人とか松原以外にいる人でも、町内会費をいただいた方たちの中に、75歳以上の方がいるので、そういう方たちにもプレゼントを届けました。

それから、実はね、16、17日の二日間ね、コミュニティーに泊り客がありました。釜石市内そうだと思うんだけど、いろんな所から釜石を視察に来たり、もちろんボランティアに来ている人もたくさんいるし、視察研究とかね、いろいろそういう名目でたくさんバスを仕立ててね、来てる人たちがたくさんいるんですけど。私もその人たちの事は詳しくはわかりませんが、青年会議所っていう組織があるんですけど、会議所が全国的なものだから、釜石青年会議所が仲立ちで、その方たちのお世話でね、ここに二晩、30名ずつ宿泊しました。もちろん夏場だし暑かったのでね、布団なんかいらないでしょ？だから「大丈夫よ」なんて言ってたんだけど、そこら辺はキチッと青年会の人たちが借りてきて、ここにすごい布団と毛布積んじゃってさ（笑）。30名・・・凄いつけよ！16日は、広島の方から来た方たちだって言ってね、大学生もいれば、元・学校の校長先生たちの組織もあれば、いろんな組織の人たちが釜石を復興の状況とかね、被災の状況なんかを視察研究に来たという事で、ここに泊まりました。17日は、高知県の大学生ということで、若い子たちばかり来て、だいぶ夜中うるさかったみたいだけど、それにはちゃんと理由があって、台風で、こちらに向かうときに新幹線がストップして、予定より遅くに釜石に着いてしまったんですって。それから食事をしたり、何かしてここ（松原）に着いたのは11時過ぎてたもんね。それからお布団敷いたりなんかしてたらやっぱり12時、1時になってたみたいだから、やむを得ないなと思ってました。朝7時ぐらいにはもう・・・サーッとみんな帰って行っちゃってさ（笑）。すごく嵐のようでしたけども。

そんなわけで、ここも宿泊可能だというね、一つの前例を作りましたし。私たちも提供してあげたいってず

っと前から思ってたので、よかったなあと思います。夏にね、お盆の時に、市の方から仮設の家族のもとに遠いところから来てる人たちにこういうところ、泊まることを目的としてね、提供してくださいというお話があったのですが、OKをしてはいたんですけども、松原から他の仮設まで距離があるでしょ？なかなかね、そういう関係もあって来なかったんだと思うけど…。用意してたんだけど来なかったのね。

もっとボランティアの人達とかね、そういう方に提供できればいいなってずっと考えていたので、今回の16、17日の件は、すごく私たちにとっては歓迎だったわけです。私は別にね、管理人でもないから、「みなさん、ようこそ！」ってそういうのはしなかったんですけども、16日の広島の人たちはね、ガスとかそういうのもちょっと使いたいというので、注意なんかもして、教えてあげたりした関係で、接触はあったんですけども。季節が夏だから良かったのかなあという風に思います。冬だったらちょっと大変だけども。

あとは・・・実は明日（26日）ね、会議なんだけど、地域会議っていうのがあるでしょ。釜石市内の地域会議が。その中で、港釜石地区会議っていうのがあるわけさ。更にその中の、ブロック会議っていうのがあるのね。松原と嬉石と大平と望洋ヶ丘の4町内の集まりが明日ここであるんだけど、この会議はね、本当はそういう地区会議の方に行ってね、いろいろお話することも多いし、今回松原町は、町内会長さんが代行でやってきたし、代行の町内会長さんも、北上の方に移動したりして不在だったりしたこともあって、この地区会議に関しては、私がね、代行の代行みたいな形で、参加をしているんなら会議に入ってきてたんだけど。今回松原町では4月から、町内会長さんが新しくなりました、その方も参加はもちろんしていただくしね。いつまでも事務局長さんの出番でもないのですね。もう少し皆さんと、地域の課題とかね、もちろん防災含めてね、そういう情報の交換、共通課題なんかを明日は話し合いをして、まとめていきたいなっていう風に思っていました。

共通する課題なんていうのもいっぱいあるわけよ。例えば子供のことをとおせば、白山小学校に皆通ってるわけでしょ？そうすると皆白山小学校区なんだよね。だから、学校に行く途中の道路の問題とか、下校時の問題とか、交通安全の問題とか、いろいろなことがいっぱいあると思うのね。そういう事をざっくばらんに町内会同士がさ、話し合いをしておけば、これからの事についても決してマイナスではなく、プラスに繋がっていくと思っているから。すごくいいことだなあって思います。

一以前土砂災害があってから「避難道路を作ってほしい」という訴えのお話の方は何か進展はありましたでしょうか？

柴田：うん。進展なし。避難道路に関しては、要請はしているんですよ。嬉石の人たちも、今度復興住宅が今まであった住宅のあたりじゃなく、道路の上側の方に土盛りをして建つみたいなのね。つまりごん太寿司の上の方に建つと思うんだけど。

津波来た時に、避難するときに国道しかないわけでしょ？だから山際を通って行ける道路も欲しいねって、嬉石の町内会長さんも話してるわけ。もちろんその道路も私たちも市民交流センターが避難場所になってんだよね。松原は。でもあそこまで行ったら、もし津波の場合、道路なんて通れないわけよね。今回もだったけどさ。そうした時にどこを通って市民交流センターに避難すればいいの？ってなったときは、やっぱり自分とこの山とか、そういうところを通って行くよりほかないわけなのね。それを考えれば、こっちだけでは避難道路は困るし、松原では、願えば製鉄所を通って鈴子方面にね、もしさ、許可してくれれば避難道路を作ってもらえればすごくいいなと思いますよね。

だから避難道路の話に関しては具体的にはいかないし、避難道路はね、防災課の方でも考えているけども、全部市の方では絡めて考えてるみたいなのね。さっき言った地区会議の中でもそういう話が出るし、道路関係の方でね、いろいろ考えてるみたいだから。もう少し時間がかかるみたいだし。たとえば製鉄所の構内

を通るにしても、大きな企業の中を通らせてもらうっていうのは非常にね…だからいろいろな課題はあるんだけど。避難に関して言えば松原は右も左も山でしょ？だからもう少し山を整備してもらい、津波の場合、避難できる沢なら、手すりをつけて歩きやすいようにしてもらおうとか。

避難道路っていう話が出たのはね、土砂災害のことが大きい。山の上から水が来た時に、どこへ逃げればいい？っていうことだよ。それは、右か左に道があればさ、逃げる事できるでしょ？

松原会の中でさ、昔の松原の町並みを記録しておかない？っていう話も出たっただけ。すごい人が住んでいたのよ。松原は。

未来のことを思えば、何人ぐらいの人が残ってここで生活を繰り返すのかわかんないけども、変わらないのは松原という地名でしょ？だから一つの歴史の記録を持っていた方がいいなって思います。

3.11 の記憶を記録にしたいと思っています。

### 一復興・または復興住宅について、どのあたりに復興住宅は建つ予定なのでしょう？

柴田：復興住宅・・・全然。今コンビニ建ってますよね。コンビニの左手側に建つ予定はあるみたい。今仮設に入っている人達にアンケートとって、数を抑えて集計して、それによって何階建てかとか決めるみたいだからさ。10人ぐらいしかいなきゃ平屋建てなんだしさ。人が増えていかないと街づくりになっていかないのでね。町内会も大変なんですよ（笑）。町内会費がもう少ないものですからね。3分の2いないから。やる行事はそれでも同じなのね。なるべく省きながらやってるけども。でも11月に温泉に行くの（笑）。

久々に町内レクリエーションということだね。まだ皆さんにはお知らせしてないんだけどさ。たまにはいいんじゃないかっていうことで。何人集まるかわかんないけどね。

もう少しね、復興が見えれば私たちも励みになるんだけど、土台をね、壊したところもあれば、手続きは終わってるんだけどまだ壊れてないところがほとんどでしょ。だから次々壊れていくなれば「ああ、始まったなあ」とかって思うけど。なかなか目に見えない復興で、皆ね、何にもしゃべりたくないみたいな感じだよ。今。一頃は「遅い！何やってんだ！」って声に出して言ったりなんかしてたけど、今は「何も変わってないべ？」「変わったことないべ？」って、それが合言葉みたいになって、「なんだかねえ？」って感じですよ。寂しいよね。それと最近やっとなら角度で国会が騒ぎ出したけど、復興という名のもとの予算で北海道に道路を作ったり沖縄に道路かな？作ったり、そういう名目でお金を使っているのだから、「なるほど、これじゃ復興が遅れるのが当たり前だし、復興のお金がこっちの方に回ってくるのがやっぱり少ないのかな？」って考えたりするよね。まだ国の体制もしっかりしてないし、どうなる事やら。根っこがまだまだなので。いくら市の方に怒鳴り込む人がいても、市の方では何もできないし。ただ大事なものはお互いに、毎日毎日支えあっていかなきゃ仮設の人たち苦しいと思うよ。

### 一最後に、今現在、市・行政に伝えたいことなどありましたらお願いします。

柴田：復興の事に関してなんだけど、国道283号線と国道45号線の嵩上げについてやっぱりもっと具体的にね、時期とかキチッとね、出して欲しいなと思ってます。そこが決まらない限り、地域の土地の嵩上げっていうのは決まってこない気もするし、それが遅れてる原因でもあると思うし、例えば国土交通省の道路の事に関しては、新町の道路の方に力を注いでるのは十分承知ですし、壊れている箇所を復旧させているというのも十分わかったうえで、今度は復興ということで、ここら辺（松原）は三鉄の高架橋があるので、そんなに高く嵩上げするという事ではないと思うのですが、具体的にいつぐらいからとかそういう目途をね、市と国の方とか道路関係の方と打ち合わせをきっちりとして、市民の方に示してほしいなと思います。

それから、復興住宅の件を1日も早く、お願いします。仮設に住んでる1人1人の方たちの切ない思い

をくみ上げて考えていっていただきたいと思うし、それに伴う、住宅に入れないでいる人もいるわけですので、解決していってほしいなと思います。あとは、その都度いろんな地域会議なり、町内外の陳情なり、道路の事、地域の事、松原では忘れて欲しくない土砂災害の事について、砂防ダムなり、建設について、もう少し法令とか規則ですね、緩やかに国にしていってほしいですし、そういう努力も市・県とかにしていただければありがたいなあと考えております。土砂災害が来てからでは遅いので。平成14年の時みたいに、尊い人命が失われてからでは非常に遅いと思います。

私たちは、海を見て、山を感じて暮らしていく住民ですので、そこら辺を是非、ご配慮いただきたいと思っております。伝わるといいですけどね。市にね。わかっているってすぐ言われるんですけどね。わかっても実行に移して頂けないのが非常に残念だなと思っております。